

課題名	原発事故のミティゲーション措置に関する貨幣的評価		
参画機関	神戸大学、京都大学		
事業規模	期間	平成24～25年度	総額
			12百万円
<p>【研究代表者】 山根 史博 神戸大学 講師 (大学院経済学研究科計量・統計分析講座) (現) 広島市立大学 准教授 (国際学部)</p> 			
<p>【研究概要】 福島第一原発の事故は日本社会に様々な不安をもたらしました。例えば、放射線被曝の健康リスクや原発事故の再発リスクへの不安が挙げられます。こうした不安を緩和するためには、除染や原発の安全強化などでリスクを削減するとともに、リスクに関する正確な情報を社会で広く共有することが重要です。我々は、これら一連の措置をミティゲーション措置と呼んでいます。 本研究の目的は、より効果的なミティゲーション措置を計画・実施していくための情報基盤を構築することです。そこで、福島県をはじめとする原発立地地域を対象に調査を行い、不安を数量的に把握するための指標として資産価値や住民経済厚生を活用しながら、(1)事故後に生じた不安の時間変動をモニタリングするとともに、(2)人々の不安が形成される心理的メカニズムの解明に取り組みました(図1)。 主な成果として、(1)福島第一原発周辺で事故直後に資産価値が低下したものの、2012年1月もしくは7月以降の更なる低下は確認されました(図2)。(2)について、福島県や他の原発立地地域の住民を対象に行ったウェブ調査で、放射線被曝の健康リスクや原発の再発リスクを高く見積もる(悲観的な)人の特徴や、リスクの大小を明確に見積もることが困難な(曖昧な)人の特徴を分析しました。また、原発の再発リスクの見積もりが曖昧な人ほど、大きな不安を感じていることが確認されました(図3)。</p>			
<p>【その後の取り組み】 今後も本研究を継続・発展させていきたいと思えます。例えば、福島第一原発周辺の資産価値変動を続けて見ていくことで除染による不安緩和効果を数量的に把握できれば、更なる除染の必要性が議論され、より低廉な除染技術が開発されていくかもしれません。また、リスクに対する人々の認識・不安と情報との関係を解明し、その知見を社会全体で共有できれば、風評やデマなどに対する社会の危機感や免疫力が高まることが期待されます。</p>			

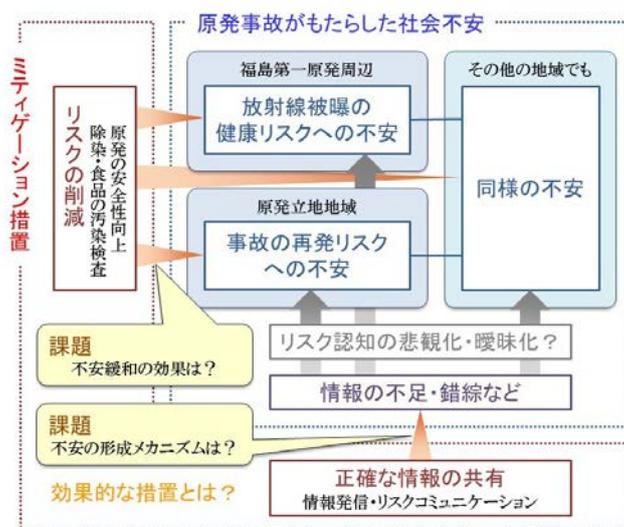


図1. 原発事故による社会不安と本研究の課題

不安を緩和するためには、リスク削減だけでなく、正確な情報共有も重要です。

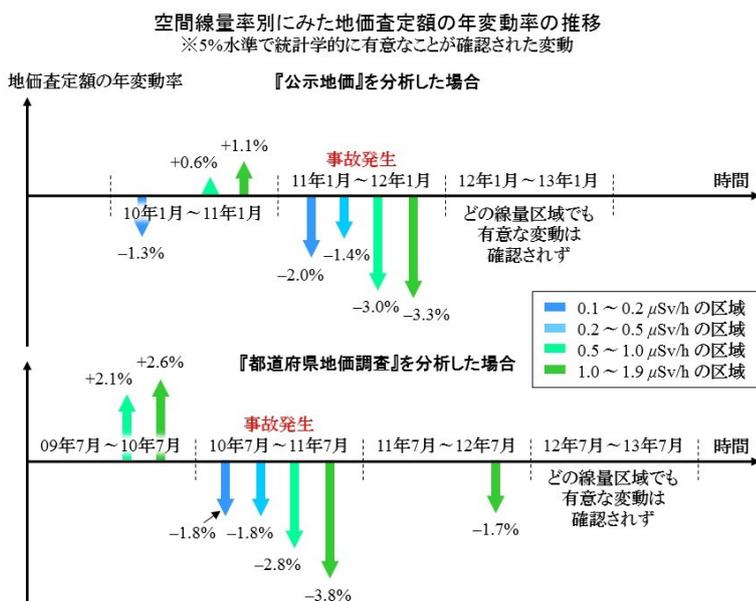


図2. 福島第一原発周辺の資産価値変動

汚染レベルが高い区域ほど事故直後の資産価値の低下が大きいことが確認されました。除染の進捗を踏まえながら、今後も分析を続けていきます。

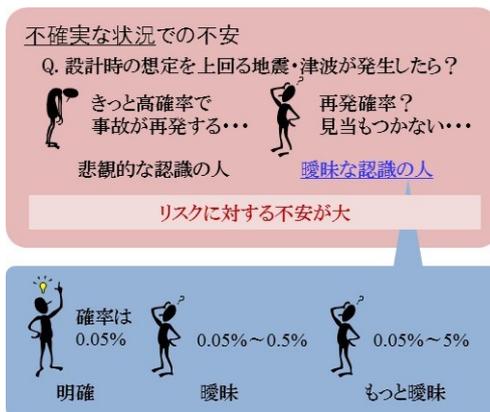


図3. リスク認知と不安

リスクの認知が悲観的な人だけでなく、曖昧な人も不安が大きい傾向にあるようです。

代表的な特許、論文受賞など

【発表論文】

1. Fumihiro. Yamane, Hideaki. Ohgaki and Kota Asano (2013), "The Immediate Impact of the Fukushima Daiichi Accident on Local Property Values," *Risk Analysis*, Vol. 33, pp. 2023-2040.
2. Fumihiro. Yamane, Kyohei Matsushita, Hideaki Ohgaki and Kota Asano (2013), "Study Plans Concerning Monetary Evaluation of Mitigation Measures for the Fukushima Daiichi Accident," *Energy Procedia*, Vol. 34, pp. 937-944.
3. Fumihiro. Yamane, Kyohei Matsushita, Toshio Fujimi, Hideaki Ohgaki and Kota Asano (2014), "A Simple Way to Elicit Subjective Ambiguity: Application to Low-dose Radiation Exposure in Fukushima," Discussion Paper, No. 1417, Graduate School of Economics, Kobe University.

【受賞】

1. 日本公共政策学会 論説賞、2014年、山根史博・大垣英明・浅野耕太、発表論文1に対して
2. 日本原子力学会 社会・環境部会 優秀発表賞、2015年、山根史博・松下京平・大垣英明・浅野耕太、本研究に関する一連の成果報告に対して